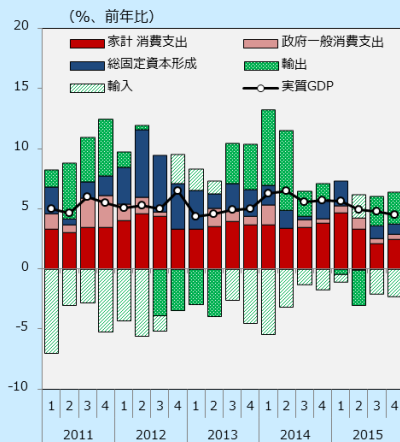


# マレーシア：GDP（2015年10-12月期） —食料品価格上昇などから個人消費が低迷—

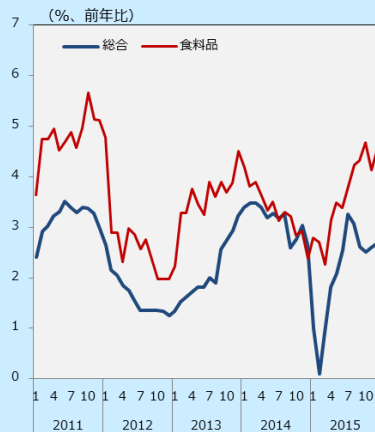
*MRI Daily Economic Points*  
February 18, 2015

## 実質GDP



資料：Bloombergより三菱総合研究所作成

## 消費者物価

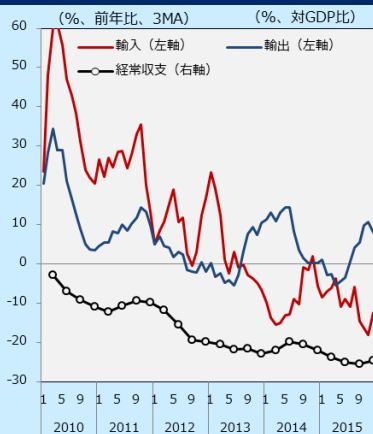


## 評価ポイント

### 今回の結果

- 15年10-12月期のマレーシアの実質GDPは、前年比+4.5%と7-9月期の同+4.7%から伸びが低下した。
- 成長率低下の主因は、家計消費の低迷だ。背景には食料品などの価格上昇がある。消費者物価指数は、原油安の影響から、前年比+2.7%（15年12月）と大幅な上昇は回避しているが、食料品の価格は同+4.6%と通貨安の影響を受けて上昇している。
- 輸出は、通貨安の影響から工業製品の輸出が拡大しており、緩やかに伸びが上昇。ただし、輸出の20%弱を占める鉱物性燃料は、15年12月には前年比▲32%減と大きく減少しており、急速に進んだ通貨安に比して伸びは緩やか。
- 成長率が鈍化している中、経常収支も黒字幅の縮小を続けている。原油安が輸出を通じて経常収支を押し下げており、通貨安も対外債務の支払い増加などを通じて、経常収支の黒字幅を縮小させる側面がある。

## 輸出入



資料：Bloombergより三菱総合研究所作成

## リングドルレート



### 基調判断と今後の流れ

- 昨年夏頃に急速に進んだ通貨安は、15年11月以降、一服している。しかしながら、輸入価格上昇により消費が低迷していることや、原油安が輸出の頭を押さえしていることなどから、マレーシア経済は減速傾向にある。
- マレーシア政府は、歳入の多くを原油関連企業からの税収や配当金に依存している。このため、既に16年度予算の歳出削減を表明するなど、政府による景気下支え効果も期待し難く、16年の成長率は4%台前半まで減速すると予測する。
- また、政府は、今年2月初旬に、税収確保のため、外国人労働者への課徴金(レビー)を大幅に引き上げる方針を示したが、労働者の反発を受け撤回している。ナジブ首相の国営投資会社からの違法献金疑惑をめぐる論争も続いており、政情の不安定化による景気下振れリスクも高まっている。